

各関係機関長様

佐賀県農業技術防除センター所長

## 早植え・普通期水稲におけるいもち病の防除の徹底について

平成26年産早植え・普通期水稲ではいもち病が多発生し、保菌率が高かったことから、本年産水稲において苗いもちが多発生する恐れがあります。

については、下記事項を参考にして、防除対策を確実に実施してください。

### 記

#### 1. 発生概況

慣行栽培の平成26年産水稲籾の保菌調査では、早植え、普通期うるち品種の保菌率は平年より高かった（表1）。〈+〉

表1 平成26年産水稲籾のいもち病菌保菌率（農業技術防除センター調査）

作型	品種	調査圃場数	保菌率	平年 (保菌率)
早期水稲	コシヒカリ	12圃場	2.2%	1.4%
早植え水稲	うるち品種	16	10.4	1.0
普通期水稲	うるち品種	31	3.6	0.4
	もち品種	10	0	0.3

注) 調査は巡回調査圃場で行い、各圃場当たり早期水稲、早植え水稲では50粒の籾を、普通期水稲では25粒の籾について保菌状況を調べた。

保菌率の平年は平成16～25年産の平均値。

#### 2. 防除対策

- (1) 比重選と通常の種子消毒剤にベノミル水和剤を加えた種子消毒を徹底する。
- (2) 育苗箱で種籾が露出すると本病が発生しやすいので、覆土を適正に行う。
- (3) 育苗箱で苗いもちがみられたら、早急に取り除き、適切に処分する。
- (4) 育苗箱で発生を認めた場合は、早急に防除を行う。
- (5) 山間山麓地域や常発地域および耐病性の弱い品種を栽培する場合は、育苗箱施用を徹底する。
- (6) 水田の補植苗や畦畔に放置された残り苗は、葉いもちの伝染源になることが多いので、速やかに処分する。
- (7) 防除方法は県病害虫防除のてびき(P133-142、P145-151)を参照する。

[http://www.pref.saga.lg.jp/web/shigoto/\\_1075/\\_32933/ns-nougyou/\\_50453.html](http://www.pref.saga.lg.jp/web/shigoto/_1075/_32933/ns-nougyou/_50453.html)